

山本篤「映像小屋 2」

3 August – 14 September, 2024

全 6 作品 34min. 32sec.

ShugoArts

壮大な概念から、近所の山、街、リビングルーム、鈴虫など具体的で身近なものごとまで。宇宙の時間、人生という時間、春夏秋冬の一年、塔壇香が燃える一週間、夕方から夜までの時間、涙がこぼれ落ちる時間まで。今回の「映像小屋 2」のプログラムでは、様々な時空や概念、作品表現の垣根を超えて繋がりながら、自分の世界観・人生観を立ち上げたいと思い構成しました。

2024 年・山本篤



《長いタバコと塔壇香：序》2024, 3min. 43sec.

《長いタバコと塔壇香：破》2024, 3min. 32sec.

《長いタバコと塔壇香：急》2024, 4min. 37sec.

アジアの様々な寺院で、巨大な渦巻線香が数日かけて煙を上げながら灰に変化している。世界の様々な場所で、人々はタバコをふかし、煙を吸い込みそれぞれの時間を過ごしている。私たちは時計だけではない、様々な時間の単位の中で生きている。



《世界の中の宇宙》2024, 5min. 22sec.

- ①宇宙の時間と空間、私たちが生きている日常の時間と空間は、異なる（と考えられる）
- ②宇宙と日常が地続きで同じ世界の中にあるものごととして認識することは難しい
- ③宇宙を知らない私たちにとって、宇宙は概念的なものであり、意識の中に収まるものである
- ④私たちがどれだけ移動しようとも、宇宙から見れば、動いていないに等しい



《ゆるるはやさしい》2024, 3min. 55sec.

春の露天風呂では、木の枝や葉が風に緩やかに揺れる様に大きな感動を覚えた。意味や目的を持たないものや事象が人の心を動かすという事実は、自分の生について考えたときに希望になるのではないかと思った。



《泣く男》2024, 3min. 6sec.

涙は、地面を掘れば出てくる地下水のようなもので、私たちは多かれ少なかれ意識の地層の中に悲しみの地底湖を抱えている。今も世界のどこか、あるいはいたるところで悲劇は起きているし、自分の過去にも未来にも悲劇はある。私たちは皆、常に泣いていて、そして泣いていない。



《尊厳について》2024, 8min. 4sec.

祖父が入院したタイミングで、祖父の家の整理をした。思い出のものや場所から離れ病院で過ごす祖父を思う時、自分も未来に対しての覚悟が必要だと感じた。「私たちはひとりで生まれ、ひとりで死んでゆく」という言葉がある。自分が「古い」や「死」に向かう中で「尊厳」という言葉の意味について考え、その言葉に向きあうことは、今できる通過儀礼であると思う。



《長い一生》2024, 2min. 13sec.

ロボットやアバターになって生き続けることが可能な未来に希望は持てるのか。昔、祖母は毎年秋になるとどこからか鈴虫を捕まえてきて家で飼っていた。あれから 20 年以上たって、鈴虫を全く見ない年が続いている。技術は進歩し続け、私たちは気が付かないうちに何かを失い続けているのかもしれない。